

第4学年1組 学級活動（2）指導案

指導者 川崎市立南河原小学校 齊藤 亮介

1. 日時 令和2年1月15日（水） 13時40分～14時25分

2. 題材 「おたがいが笑顔になれるやりとりを考えよう」
～ 上手につなげよう「ネットにつながる人と心」～
(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

3. 題材について

(1) 児童の実態

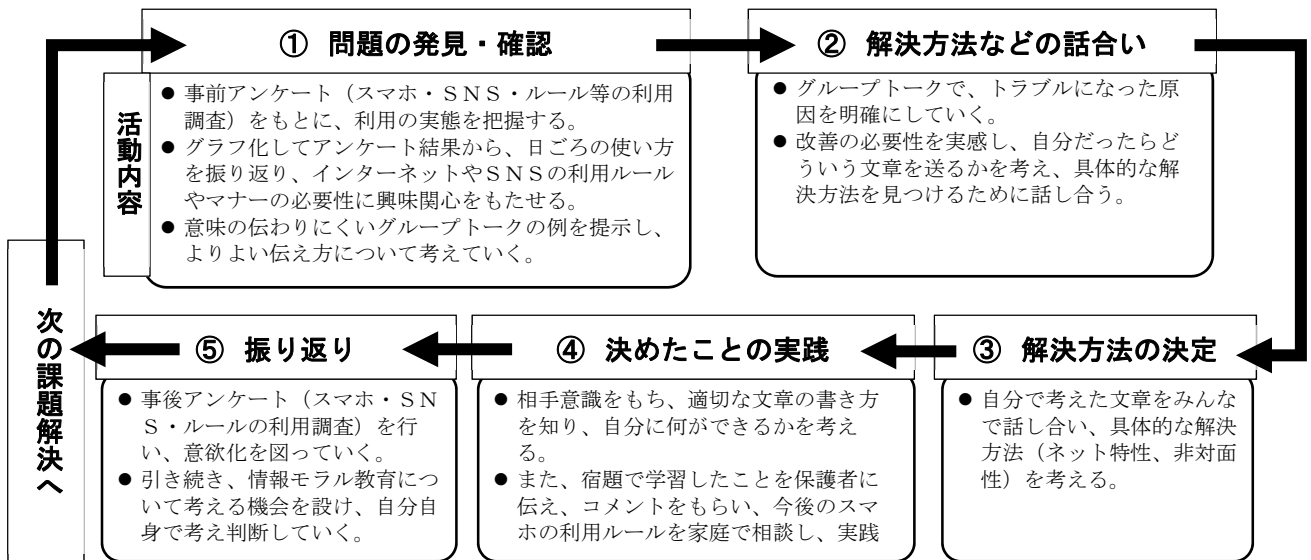
※省略

(2) 題材設定の理由

まずは、インターネット特性（以下、ネット特性）の中で、児童が身近に利用しているネットゲームを取り上げて指導した。11月の学校公開日に合わせて、「ネットゲームに夢中になると…」と題して、ネットゲームにはまり込んでしまった原因と対策について考える機会を設けた。今回立てためあてを達成するには、自分事として課題に向き合うことと家庭の協力が不可欠である。授業では、事前アンケートでの結果（ネットゲームの利用人数や利用時間）を伝え、自分の事として捉えつつ、ネットゲームは心身の健康に大きく関わってくることを知り、どうすればゲームを止められるかについて考えた。授業後には宿題として、児童が保護者に学習したことを伝え、振り返り用紙にコメントをもらうことで、家庭でもネットゲームについて考えるよい機会となった。

その後、12月に実施した教育相談や3年～6年対象の情報モラル教育アンケートの結果を踏まえ、中学年の段階でもインターネットの特性や利用のルールやマナーを知り、児童自身が正しく利用する判断力を育てたい。そして、SNSアプリにおいても相手意識をもって友だちと上手にかかわり、安心して携帯やスマホを利用しつつ、学校生活を楽しく安全に送れるようになってほしいと考え、この題材にした。

本時では、メールやグループトークなどの文章のみでのやりとりの中で、相手に間違った捉え方をさせてしまったトラブルを事例として取り上げて、児童と考えていく。自分事として、「私だったらこうする」と児童自身が判断し自己決定する、困ったときに大人に相談するなどを行うきっかけを設けるとともに、保護者に対しても積極的にかかわり、一緒に考えられるようにしていきたい。



(題材についての構想図 学級活動(2)日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全)

4. 評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
・ 日常生活の安全について関心をもち、日常生活に問題を見つけることができる。	・ 自分の生活を見つめなおし安全維持・促進のために大切な事柄を考えて実践するとともに、きまりを守って行動できる。	・ 日常生活の安全に保つためのきまりを理解している。
(情報モラル教育として意識していくこと) ・ ネット特性に関心をもち、ネット特性に基づいた安全なかわり方を意識している。	(情報モラル教育として意識していくこと) ・ メールやグループトークなどのやり取りで、相手意識をもち適切な文章の書き方について考える。	(情報モラル教育として意識していくこと) ・ 「つたわりにくい」(非対面性)、「つながる」(即時性)といったネット特性を理解している。

5. 「めざす子どもの姿」実現に向けて

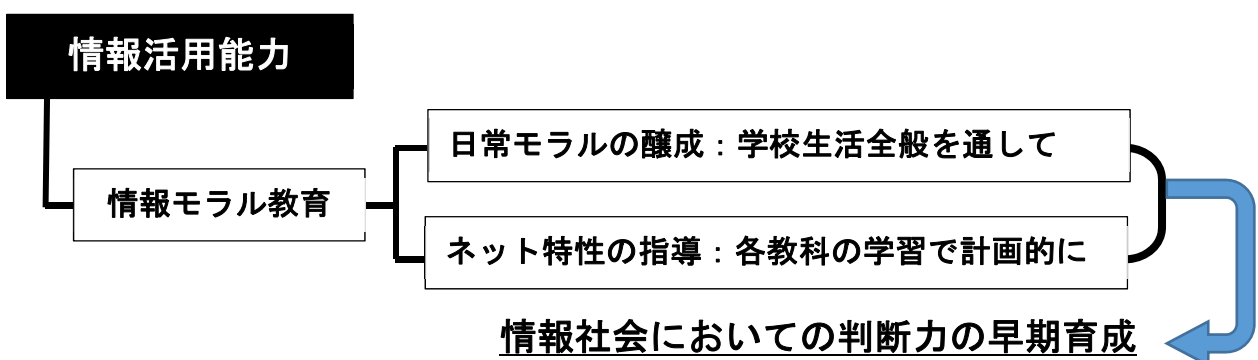
研究テーマ

**「自ら学ぶ力と豊かな心を育てる情報教育をめざして」
—情報活用能力を育てる授業デザイン—**

(1) 情報モラル教育プロジェクトについて

平成 29 年 3 月に告示された学習指導要領には、「各学校においては、児童の発達段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラル含む）、問題発見・解決能力などの学習の基盤となる資質能力を育成していくことができるよう、各教科などの特性を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。」とそれぞれの教科の学習を通して情報活用能力を育成していくことが明記された。そして、その情報活用能力には、情報モラルを含むことも学習指導要領にも明記されている。これは、急速な情報化の発展に伴い、私たちの身の回りに多くの情報機器があふれていることや、それらの情報機器を通じたトラブルが低年齢化してきていることと大きくつながっていると考えられる。

情報モラル教育の重要性が指導要領に謳われるとともに、ネットトラブルの低年齢化に合わせて早期教育を求める社会的な要請を鑑み、本研究会の中に情報モラルプロジェクトを立ち上げることとなった。



本市における情報モラル教育では、「情報社会における判断力の育成」を目指し、その実現のため、2つの視点を定め重点的に指導している。1つ目の視点は「日常的なモラル」を育むことであり、学校教育全体を通して指導している。2つ目の視点は、「ネット特性の理解」である。ネット特性は教わったり、失敗などの体験を通して気づいたりするものである。

(2) プロジェクトのめざす子ども像と保護者像について

① ネット特性をしっかりと理解する子

インターネットやSNSを使いこなす為には、ネットがもつ特性を児童が十分に理解している必要がある。ネット特性は、教わって初めて分かる場合が多い。ネット特性を知らずにインターネットを使うと、誤った使い方によって人間関係がうまくいかなくなったり、デジタルタトゥーのように将来などに対する損失が大きく、いわゆるネットトラブルになったりしやすい。そのため、インターネットやSNSを使用する前から、ネット特性を教わり判断力の基準をもつことが、ネットトラブルの未然防止につながると考え、この子ども像を設定した。

② 先のことを考える想像力をもつ子

先に挙げたネット特性を理解した児童が、インターネットに対する自分の行動や書き込みが、どのような反応や事態となるかを想像しながら関わられるように、この子ども像を設定した。ネット特性を理解するだけでネットトラブルを防げるわけではない。児童が普段の生活の中で養っている日常的なモラルを意識することで、初めて人間らしい温かみのある交流がインターネットの中でも成立すると考える。ただネット特性を知っているという段階から、知っていることを駆使して、自分の言動から先にどう影響が起こるのかを考える態度を育てること、それが、本プロジェクトが最も大切にしている点である。

③ 情報モラルを指導できる保護者

そもそも情報端末を児童に買い与えているのは保護者である。しかしその保護者が十分に情報モラルを指導できないため、児童は誤った使い方をしてしまうこととなる。保護者も情報モラル教育を受けていないため、自ら教えることに困難さを覚え、教えることから距離を置こうとする保護者も見受けられる。児童のインターネット使用は保護者の責任であり、情報モラル教育も保護者の領分であることをより強く自覚してもらうとともに、少しでも教えやすくなるように支援していくのが公教育の役割となる。

そこで本プロジェクトでは掲題の保護者像を設定し、保護者の啓発と保護者との連携も研究の対象とした。

(3) ネット特性と合言葉について

川崎市情報教育研究会では、ネットの持つ5つの特性を以下の合言葉で表し、児童及び保護者がネット特性を理解しやすいようにした。今回は、その中の非対面性「つたわりにくい」について本題材を通して考えていく。

《情報モラルの合言葉 インターネット「のひみつ」》

ネット特性：情報社会に参画するための基礎的知識				
の	ひ	み	つ	
記録性 「のこる」	流出性 「ひろまる」	公開性 「みせる」	非対面性 「つたわりにくい」	即時性 「つながる」

記録性 : デジタルコピーによって、一度ネットに出したものは消せなくなる。**のこる**。
 流出性 : 悪意のある攻撃で個人情報等が漏洩する。意図せず情報が**ひろまる**。
 公開性 : 意図的に情報が発信できる。**みせる**。
 非対面性 : 文字のみのコミュニケーションのため、感情や意図が**つたわりにくい**。
 一方で対面しない良さとして、気兼ねなく発信できる**つたえやすさ**がある。
 即時性 : 一瞬にして情報が不特定多数のあらゆる場所に届く。あらゆる場所に**つながる**。

比較的インターネットとのつながりが少ない時期から指導を始め、ネット特性を深めることが適切な判断力育成の土壌になると考えている。情報モラルの根幹は、日常的なモラルの醸成とネット

特性の理解による判断力の育成にある。つまり、ネットトラブルを未然に防止するための判断基準を身につけることが重要である。日常モラルは、全教科及び学校生活全般を通じて常に学び続けている。しかし、ネット特性は、その特性ごとに計画的に指導事項として教科・単元に盛り込まなければ、なかなか指導できることではない。そのため、本プロジェクトでは、日常的にネット特性に関して意識をもてるきっかけや考える手立てを以下のように設けたいと考える。

(4) めざす子どもの姿実現に向けての手立て

① 日常モラルを育てるために ～道徳科との連携、日々の説話～

<道徳科との連携>

日常モラルを育てるために、日々の生活や自分の行動に向き合う意識をもたせたい。そこで、道徳の授業の振り返りの活動では、一人一人がこれから自分に生かせることを考え、それを実践することで、日常モラルをより自分事として考え、そのよさについて実感できるようにしたい。

例えば、「琵琶湖のごみ拾い」の題材を学習した後に、縦割り活動で公園清掃を行った。琵琶湖をきれいにゴミ拾いする登場人物の気持ちが分かたり、その後の掃除に取り組む意欲が高まったりするなど、頑張っている姿が見られた。

また、日常モラルについては、情報モラルに必要な不可欠となる道徳目標を指導することで、判断力が培われる。自分がやりたいことやほしいものを我慢できるかという「節度」、多くの情報について正しいかどうかを判断するための「思慮」、人とコミュニケーションをとるために必要となる「思いやり」や「礼儀」、情報社会の一員としてルールを守り、正しいことを実行するための「正義」や「規範」が重要になる。各目標について自分事として捉えさせるためにも、丁寧に指導していきたい。

<情報モラルを自分事として捉えさせるために ～日々の説話による指導～>

児童一人一人が自分事として話に耳を傾けて聞くことが大切である。そこで、道徳科以外にも、朝学習や帰りの会などで日々の説話を通して児童に伝わる様々な事例を取り上げて、児童に興味関心をもたせられるように伝えていきたい。そして、インターネットの利用においても、学習したことが自分の判断材料になり、正しい行動に結びつけられるきっかけとなるようにしたい。

② ネット特性を理解するために ～合言葉「のひみつ」、説話による指導、保護者との連携～

<児童がインターネットの特性を判別できるように ～合言葉『インターネット「のひみつ」』～>

インターネットの各特性（記録性、拡散性、公開性、即時性、非対面性等）を、『インターネット「のひみつ」』と題して、簡単な言葉で合言葉として伝えることで、理解しやすくする。避難訓練のときの合言葉「おかしも」のように、児童たちから自然とインターネットは「のひみつ」だと結び付けられるようにし、児童自身がインターネットの特性を判別し、そのときにはどうすればよかったかを判断できるようにしていきたい。

<限られた時間の中でも効果的に伝えるために ～説話による指導～>

情報モラルも日常モラルと同様に、意識をもってもらいたいが、実際に授業時間を設けるのは難しい。そこで、3分位の説話でインターネットの特性について伝えていく。ニュースになっている事例から、記録性、拡散性、公開性、即時性、非対面性等のよいところや気を付けることを伝えていく。事例を伝える中で、児童から『それは、のひみつの「の」のこのるだね』のように、児童から発信できるよう、興味をもてる話題を提供していきたい。

<情報モラルへの重要性を高めるために ～保護者との連携～>

情報モラル教育の定着には、保護者との協力体制を深めることが必要不可欠であると考えられる。保護者にもインターネットの特性を理解してもらい、家庭の中で児童とルールを決めたり相談したりして、上手にインターネットと向き合ってもらいたい。

11月のネット依存の授業は、学校公開日に実施した。事前に学年だよりで情報モラルの取り組みや今後の予定について案内を出して、授業の参観を呼び掛けた。また、ワークシートに保護者のコメント欄を設けた。授業後に宿題で保護者にもコメントを求めて、家庭も自分事として捉え、児童と一緒に考えられるきっかけをつくった。本時においても同様に行う。また、引き続き、学年だよりなどで授業の様子や説話の反応、保護者からのコメントなどを掲載したりなど、情報モラルへ

の重要性を高めるための情報発信に努めていく。

③ 組織的に指導していくために ～教職員への働きかけ・研修～

保護者への働きかけに加え、教職員に対しても伝えていくことが大切である。教職員も指導事項を共有して指導できるとより効果的である。また、現行のカリキュラムに情報モラル教育を盛り込み、児童の段階に応じて身につけさせたい力は何かを明確にして指導していくよう見直したいと考えている。そこで11月に研修を行った。教職員の情報モラルに対する意識を高めると共に、組織的に指導できる体制を整えたい。

《11月に実施した情報モラル研修》

- ① 日常モラル+ネット特性（『インターネット「のひみつ」』についての指導）
- ② 情報モラルの進め方（説話、保護者に対する情報モラル教育への関心の高め方）
- ③ カリキュラム案を提案（次年度に向けて、カリキュラム案を提示。今後、各学年のカリキュラムマネジメントにおいて、情報モラル教育及び情報活用能力を盛り込んでいく）

6. 活動の実際

(1) 事前の活動

活動の場	児童の活動内容	保護者との連携	身につけさせたい力 気づかせたいこと
6月	[授業] 総合：人とのつながり ～大きな菊を咲かせよう～ ・ 菊の品種や育て方をインターネットで検索して、調べ学習を実施。		[ICTスキル] ・ ローマ字入力の手入力、検索エンジンの使い方を知ること。 ・ インターネットの利便性に気付くこと。 ・ 正しく使い、意図しないページを探したり、アクセスしたりしないことを判断すること。
9月	[授業] 国語：だれもが関わり合えるように 総合：人とのつながり ～わたし達にできること～ ・ 福祉について、詳しく調べたいことを図書とインターネットの両方を使って、調べ学習を実施。		[ICTスキル] ・ 検索（○○スペース△△）を使って、自分の知りたいページを見つけることができること ・ 図書とインターネット検索の双方の良いところと課題を知ること。
10月	[授業] 道徳：勤労 「琵琶湖のごみ拾い」		[日常的なモラル] ・ 働くことのすがすがしさを 知ること。 ・ 学習したことを生かして、 縦割りグループの公園清掃 に取り組むこと。
10月31日		[学年だより] 学年だよりを配布。情報モラル教育でアンケートや授業を実施する旨と実施予定の活動を掲載。	
11月1日	[実態把握] ・ 4年生を対象に、ネットゲームの利用有無や利用時間について調査。		
11月6日 (学校公開日)	[授業] 道徳：「ネットゲームに夢中になると…」 <参考> ・ 情報化社会の新たな問題を考えるための教材指導の手引き「ネットゲームに夢中になると…」 P30～35 [授業後] ・ 授業後、ワークシートに振り返りを実施。	[保護者との連携] ・ 保護者に学習したことを伝え、ワークシートに保護者のコメントを書いてもらう宿題を実施。 ・ 保護者も情報モラルに興味関心をもってもらう。	[ネット特性] ・ ゲームの「依存性」や「ネット被害」について知ること。 [日常的なモラル] ・ 日常モラルの「節度」、「思慮」の大切さに気付くこと。
12月3日	[実態把握] 3年～6年を対象に携帯・スマホの利用状況についてのアンケート ・ 携帯機器の所有状況、SNSなどの利用、家庭でのルールなどの実態を把握する。		
12月初旬		[教育相談] ・ インターネットガイドを保護者に渡し、学校	[保護者への連携] ・ 保護者は、情報モラル教育の担い手は保護者であるこ

		での情報モラル教育の取り組みと、情報モラル教育の担い手は保護者であることを伝える。 ・家庭のネット利用・家庭のルールなどについて状況を聞く。	とを知ること。
12月～1月	[日常的な指導] 日々の説話を実施。 ・説話の中で、情報モラルの合言葉『インターネット「のひみつ」』を伝える。 ・「のひみつ」の言葉を教室に掲示し、説話の度に、児童がどの特性に当てはまるかを意識できるようにする。		[ネット特性] ・ネット特性のよい点と悪い点を知ること。 ・のこる(記録性) ・ひろまる(拡散性) ・みせる(公開性) ・つながる(即時性)
12月16日	[授業] 国語：クラブ活動リーフレットを作ろう ・各自のクラブの取り組む様子の写真をタブレットパソコンで撮影し、印刷する。		[ICTスキル] ・児童用ユーザーIDとパスワードを用いてログインすること。 ・タブレットの写真撮影方法を知り、撮影した写真を各自の個人フォルダに保存・ファイル名の変更、印刷操作を行うこと。 [ネット特性] ・のこる(記録性)を知ること。
12月19日	[授業] 道徳：相互理解・寛容 「つまらなかった」		[日常的なモラル] ・相手の気持ちを考えて行動・態度を考えることを知ること。
12月20日	[授業] 図工：ほって、すって、見つけて ・木版画の下書き用の写真を撮影し、印刷する。 ・写真データを指定したフォルダにコピーする。		[ネット特性] ・「つながる(即時性)」、「ひろまる(拡散性)」を知ること。
12月25日		[学年だより] ・11月の情報モラル教育と今後の取り組みについて掲載。 ・冬休みの長期の休みにゲームやインターネット利用のルールについて、児童と話し合うよう働きかける。	[保護者への啓発] ・保護者も情報モラル教育について興味関心をもち、児童にインターネット利用のルールを守らせること。
1月	[授業] 学活：SNSのグループトークを体験しよう (学級活動(2)日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全) ・各自のログインID・パスワードでログインし、キューブキッズのチャット機能を用いて、グループトークを体験する。 ・グループトークを行った良さや感想を交流する。		[ICTスキル] ・グループトークを知らない児童も文章での情報やり取りの方法を知る。 [ネット特性] ・メールのネット特性(つながる(即時性)やひろまる(拡散性)を知ること。 ・つたえやすい(対面しないこと、気兼ねなく使えることのよさ)に気付くこと。

<事前アンケート>

活動の場	活動内容	評価（☆）と支援（○）	資料
12月3日 朝	・児童の携帯・スマホの所有、SNSアプリの利用・ルール・トラブルの有無の状況を知る。	○普段の生活習慣を振り返られるように声をかける。 ☆アンケートに答え、自分の生活について考えようとしている。 (集団活動や生活への安心・意欲・態度)	情報モラル教育アンケート（安全にインターネットを利用する意識を高めるための資料）

《インターネットの力 『インターネット「のひみつ」』》

の	ひ	み	つ	
「のこる」	「ひろまる」	「みせる」	「つたわりにくい」 「つたえやすい」	「つながる」
<p>のこる : 写真や動画など、一度ネットに出したものは消せなくなる。のこる。</p> <p>ひろまる : 悪意のある攻撃で名前や住所、顔写真などの個人情報等がもれてしまう。意図せず情報がひろまる。</p> <p>みせる : 写真や文章などを意図的に発信できる。みせる。</p> <p>つたわりにくい : 文字のみのコミュニケーションのため、感情や意図がつたわりにくい。</p> <p>つたえやすい : 一方で対面しない良さとして、気兼ねなく発信できるつたえやすさがある。</p> <p>つながる : 一瞬にして情報が不特定多数のあらゆる場所に届く。あらゆる場所につながる。</p>				

(2) 本時の活動

① 本時のねらい

友だちとのかかわり方を振り返り、メールやグループトークでは、「伝わりにくさ」（非対面性）といったネット特性を知り、相手意識をもちトラブルなくやり取りするにはどうしたらよいかを話し合っ、自分なりの伝え方を考え実践できるようにする。

② 本時の展開

流れ	児童の活動	支援（○）と評価（☆）	資料
導入 (全体)	<p>[つかむ]</p> <p>1. 事前アンケートの結果を見て、インターネットの利用状況を振り返り、SNSアプリの利用で困っている人がいることに気付く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ネットにつないでいる人は全体の○○%もいる。 ・ ネットゲームをやっているよ。 ・ LINE や SNOW など連絡の取り合いをしている。 ・ YouTube や TikTok の動画は楽しい。 ・ LINE で、約10%の人が嫌 	<p>○アンケート結果や今までの利用経験（動画の視聴、友達や親との通信、ネットゲーム、ショッピング）から身近に幅広くインターネットを活用していることを想起させる。</p> <p>○ネットを利用すると便利で楽しい反面、トラブルなどで嫌な気持ちになっている人が学校でSNSを利用している人の約10%いることを取り上げ、課題に対して、自分事として捉えるよう声をかける。</p> <p>☆インターネット利用、SNSの利用について関心をもっている。(集団生</p>	<p>アンケート結果グラフ（パワーポイント。棒グラフにまとめる。）</p> <p>・資料1：児童の意識を高めるための資料</p>

<p>(全体)</p>	<p>な思いをしたことがあるんだね。</p> <p>2. インターネットの合言葉『インターネットの「のひみつ」』を確認する。</p>	<p>活や生活への関心・意欲・態度)</p> <p>○「のひみつ」カードを提示して、『インターネット「のひみつ」』を確認する。</p>	<p>掲示用『インターネット「のひみつ」』カード</p> <p>・資料2：ネット特性の知識を定着させるための資料</p>
<p>展開 (全体)</p>	<p>[さぐる]</p> <p>3. 資料を見て、課題を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ えーっ、タケシはひどい。人としてどうなの…。 ・ もしかしたら、タケシは公園までの移動手段を聞いているのかな？ ・ まもるとタケシはお互いに嫌な気持ちになっちゃったね。 ・ 文章だけだと、相手に伝えたい情報が伝わらないことがあるね。 ・ どのように伝えたらよかったのかな。 ・ SNSは便利だけど、顔や表情が見えない、声が聞こえないと気持ちが伝わりにくいね。 	<p>○グループトークの映像資料から、友達とのトラブルの原因は何だったかを予想しながら見るよう伝える。</p> <p>○グループトークの映像資料は、児童に読ませて、トラブルにつながる「何で来るの？」の意味の捉え方を考えさせるようにする。</p> <p>○タケシの文章に悪意を感じている児童を取り上げて、タケシが悪いと確認した後、実はタケシは移動手段を聞こうとしたことに気付いた児童を取り上げ、児童の思考を揺さぶる。また、お互いが自分の文章は悪いと思っていないことを確認する。</p> <p>○声の抑揚や表情が見えないことで、相手は勘違いすることがある。</p> <p>○伝わりにくさを強調する。全く伝わらないわけではないので、語意の用法に注意させる。</p> <p>○今回のトラブルには、新しいネット特性の「つたわりにくい」が大きく関わっていたことを確認し、ワークシートを配る。</p> <p>○「のひみつ」の欄に、「つたわりにくい」を書かせる。</p> <p>☆「つたわりにくい」というネット特性を理解している。(集団活動や生活についての知識・理解)</p>	<p>グループトーク映像資料(パワーポイント)</p> <p>・資料3：ねらいを焦点化するための資料</p> <p>・トラブルの原因に気づけない児童がいたら、必要に応じて、パワーポイントで状況確認を行う。</p>
<p>おたがいが笑顔になれるやりとりを考えよう</p>			
<p>(自力思考)</p>	<p>4. トラブルになったタケシとまもるの文章を考え、お互いが笑顔でいられるにはどうすればよかったかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ タケシ「何で来るの？」を「自転車で来るの?」とか工夫すればよかったね。 ・ まもるも、タケシが送ったメッセージがどういう意 	<p>○トラブルの文章に注目し、自分だったらどんな文章を送るかななどを発問し、課題提示することで、自分がその立場になったときどう判断するかを考えさせる。</p> <p>○ワークシートのタケシとまもるの吹き出しの内容を考えて書かせることで、自分の考えをもたせる。</p> <p>○相手意識をもち、相手の文章の意図を読み取ったり、送る内容が適切か</p>	<p>ワークシート</p> <p>・資料4：実践への意欲付けのための資料</p>

<p>(4人組で交流)</p> <p>(全体交流)</p>	<p>味か、確認すればよかったね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メッセージを送る前に、相手にどう伝わるかを考えるのが大切だね。 ・日々の生活でも、友達と話すときでも同じことが言えるね。 <p>[見付ける]</p> <p>5. 考えを交流する。</p> <p>6. 4人組の代表の児童2～3人、発表する。</p>	<p>どうかを判断したりする考えを価値づけする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○メールの手軽さ・気軽さなどのよさにも触れ、上手に利用することが大切であることを伝える。 ○合言葉と日常モラルがネットトラブルを避ける判断力の基であることを繰り返し強調する。 ○日常の授業で交流している4人組で考えを交流し、進んで自分の考えを伝え合う姿を価値付けする。 ○代表者を指名して、自分の考えやグループの友達の考えを聞いてよいと思ったことを発表させる。 	
<p>終末 (自己決定) ↓ (代表者)</p>	<p>[決める]</p> <p>7. みんなが笑顔になれるにはどうすればよいかのめあてを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSは便利だけど、相手にどう伝わるかを考えて文章を作りたい。 ・メッセージを送る前に、相手にどう伝わるかを考えたい。 ・「南小よい子のきまり」のように、「のひみつ」を意識して守りたい。 ・これからは、クラスの中の会話や手紙を書くときでも、相手の気持ちを考えるよ。 ・困ったときは、大人に相談します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○他の児童の発表を聞くことにより、自分自身の振り返りができるようにさせる。 <p>☆話し合いを生かして、相手意識もち適切な文章の書き方について、自分が実践できそうな具体的なめあてを立てている。(集団の一員としての思考・判断・実践)</p>	

(3) 事後の活動

時期	児童の活動内容	保護者との連携	身につけさせたい力 気づかせたいこと
1月15日 宿題		<p>[保護者との連携]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に学習したことを伝え、ワークシートに保護者のコメントを書いてもらう宿題を実施。 ・保護者も情報モラルに興味関心をもってもらう。 	

1月下旬	[実態把握] 3年～6年を対象に携帯・スマホの利用状況についてのアンケート・携帯機器の所有状況、SNSなどの利用、家庭でのルールなどの実態を把握する。		
2月		[学校報告会] ・学校での情報モラル教育の取り組みを報告。 ・保護者に情報モラル教育に対する興味関心をもってもらおう。	

<資料3：グループトーク映像資料>

友達同士でLINEをしていたら・・・

タケシ 15:00 ミドリ！ヨシオ！
その他大勢！
15:30から
キタガワラ公園で
遊ぼうぜ！

ヨシオ 15:01 キタガワラ！？
スガ公園でしょ！
りようかーい！

まもる 15:05 いくいく！
待ってて！

タケシ 15:06 え？マモル？
何で来るの？

まもる 15:06 [Redacted]

タケシのメッセージを取り上げ、自分だったらどうすればよかったかを考えます。(ワークシート1)

タケシのメッセージに対しても、どのように対応すればよいかを考えます。(ワークシート2)

インターネット「のひみつ」学習カード

年 組 名前 _____

インターネットと上手に付き合う合言葉
の…のこる ひ…ひろまる み…みせる つ…つながる、
～インターネット「のひみつ」～

かだい 課題

おたがいが笑顔えがおになれるやりとりをかんがえよう

まもるとタケシの立場たちばになってかんがえましょう。自分じぶんだったらどうしますか？

1 自分がタケシじぶんだったら、まもるつたにどのように伝える？

15:00 タケシ ミドリ！ヨシオ！
その他大勢！
15:30から
キタガワラ公園で
遊ぼうぜ！

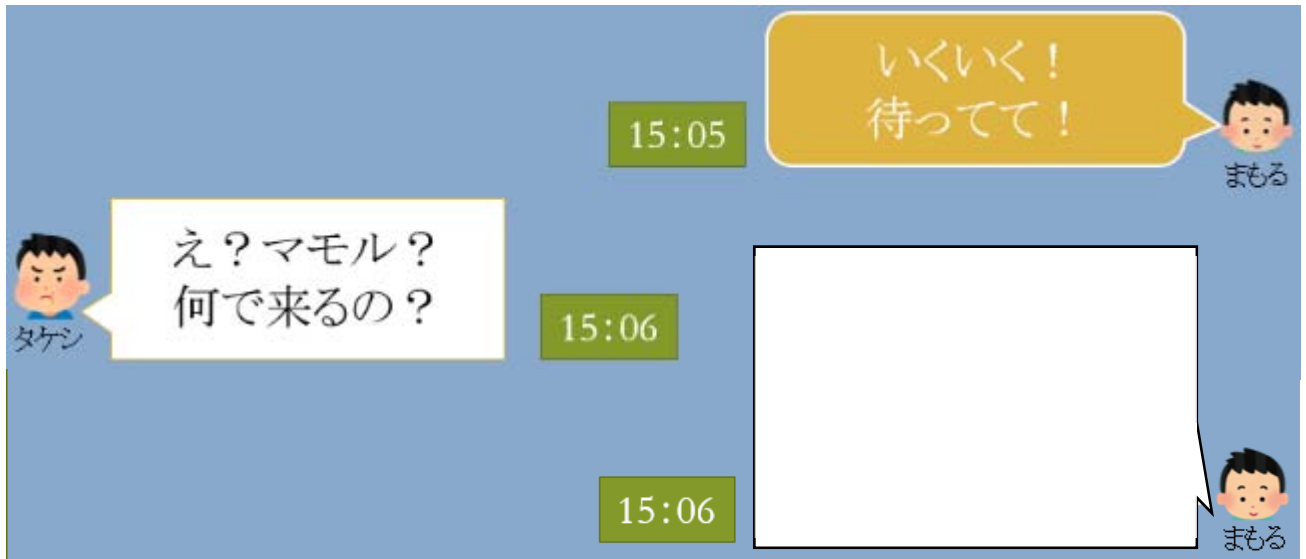
15:01 ヨシオ キタガワラ！？
スガ公園でしょ！
りょうかーい！

15:05 まもる いくいく！
待ってて！

15:06 タケシ [Blank speech bubble]

< タケシが気を付けることは？ >

2 まもるは、どのように返事を返せばよかったかな。



<まもるが気を付けることは？>

3 <ふり返い> 今日学んだことを書きましょう。また、家の人に伝えて感想をもらいましょう。

<自分の考え>

<家の人感想>
